

5 意見まとめ

5 意見まとめ

意見 5-1

新型コロナウィルス関連意見まとめ

学生の意見

今回の学勢調査 2020 では、学生から新型コロナウィルス関連の様々な意見が寄せられました。新型コロナウィルスについての意見が多く述べられていた「設問 No. 68 新型コロナウィルス(COVID-19)の流行に対する大学の対応や、現在の状況について意見があれば自由に記入してください。」及び「設問 No. 69 最後に全体を通して意見があれば自由に記入してください。」から意見を集計しました。具体的な意見は下記の通りです。

- 登校の制限を緩和してほしい (同様意見 128 件)
- 新型コロナウィルス対策についての情報共有に関する不満 (同様意見 111 件)
- 課題が多い (同様意見 91 件)
- 今後もオンライン授業を続けて欲しい (同様意見 91 件)
- オンライン授業に関する不満 (同様意見 76 件)
- 授業料の返還・経済的支援 (同様意見 68 件)
- サークルや部活動の規制に関する不満 (同様意見 55 件)
- 学生同士の交流の場を設けて欲しい (同様意見 51 件)
- 図書館を使わせてほしい (同様意見 34 件)

上述は、学生からの意見が多かった内容をまとめたものです。次の現状分析では、これらの意見をより詳細に見ていきます。

現状分析

新型コロナウィルスについては、2019年12月12日に中国の湖北省武漢市で最初の患者が見つかり¹、2020年1月15日に国内でも初めて感染が確認されました²。以来、各国の政府や機関は様々な対応や対策をしてきました。大学も同様です。

まず初めに東京工業大学が行った新型コロナウィルスの対策について述べます。本学の新型コロナウィルスの感染拡大防止対策として、人と人との接触を少なくするためにオンライン授業の導入を行いました。また、研究室内での感染予防徹底のために登校制限も行いました。さらに、課外活動や学会への参加を禁止することで感染拡大防止を徹底させました。こうした措置は、国内外の新型コロナウィルス感染拡大の状況を踏まえ、そのときどきのレベルに応じた対応をとってきたものです。そうした大学の対応について、学勢調査 2020 では、学生から様々な意見が寄せられました。

● 登校の制限を緩和してほしい

大学に行くことが怖いという意見も少数ながらありましたが、登校の制限を緩和してほしいという意見も多く寄せられました。登校の制限を緩和してほしいという意見は、特に研究室に所属している学生から多く集まっており、具体的には、実験が一日かかるので日数制限はしていいが時間制限を緩和してほしいという意見や、大学に行くことが制限されているため卒業できるか不安であるという意見がありました。

¹ <https://www.nikkei.com/article/DGXMZ054200130Z00C20A1EAF000> 日本経済新聞 『中国、肺炎患者に新型コロナウィルス』（最終閲覧：2021年3月27日 11:59）

² <https://www.nikkei.com/article/DGXMZ054444940W0A110C2CE0000> 日本経済新聞 『新型肺炎患者、国内で初確認 武漢に渡航歴』（最終閲覧：2021年3月27日 11:59）

意見まとめ

● 新型コロナウイルス対策についての情報共有に関する不満

大学側の新型コロナウイルス対策自体について、2020年3月31日に大学教務課から「新型コロナウイルス感染症の現状の状況に対応した授業等の進め方について」というメールが学生に送られました。これに対して、前期が始まる直前に授業等の進め方が変更されたことに不満を抱いたという意見がありました。また、工大祭の中止や、夏期休暇に行われた集中講義の日程を早く知らせてほしかったという意見もありました。さらに、研究室所属の学生、課外活動やサークル・部活動を行っている学生から、具体的にどのように活動すればいいのか知らせてほしかったという意見もありました。そして、大学側の新型コロナウイルス対策の情報提供について、どこで情報を得ればよいかわかりづらいことや大学ホームページが見づらいという意見もありました。具体的には、大学の対応レベルのレベル表記がわかりにくいという意見が少数でしたがありました。

● 授業の課題が多い

1Qと2Qの間があまりなく、また、授業がオンラインで行われたので、大学に登校してテストを受けるということができなくなつたため課題が増えたという意見が多く挙がりました。

● 今後もオンライン授業を続けて欲しい

新型コロナウイルスの蔓延が収まった後もオンライン授業を続けて欲しいという意見が挙がっています。一方、課題が多いという理由から、対面授業を行ってほしいという意見も少数ありました。今後もオンライン授業を続けて欲しい理由として、新型コロナウイルスに感染するリスクが減ることや通学時間を他の勉強に充てることができるとか挙げられます。また、中立的な意見として、オンライン授業と対面授業を選べるようにしたほうがいいという意見も少数ながらありました。

● オンライン授業に関する不満

オンライン授業の欠点についても学生から様々な意見が寄せられました。100分間画面を見続けることが疲れるので休息を挟んでほしいという意見や、学生側や先生側の通信設備の不具合についての不満、課題提出に用いるツールの統一をして欲しい、授業に関するメールが多くなったなどの意見がありました。

この他にも授業料の返還・経済的支援の要望、サークルや部活動の規制に関する不満、学生同士の交流の場を設けて欲しい、図書館を使わせてほしいなどの意見が寄せられました。具体的には、経済的支援については、新型コロナウイルスにより、大学に行けなくなってしまったので、授業料の返還や経済的支援を行ってほしいという意見もありました。サークルおよび部活動の活動制限については、大人数での集会やグラウンド使用が禁止となつたので、所属する学生から規制を緩めて欲しいという意見が多く寄せられました。交流の場については、特に1年生から、学生同士の交流の場を設けて欲しいという意見が多く寄せられてきました。図書館利用については、家で勉強すると集中できないので、図書館利用制限の緩和をしてほしいという意見が多く寄せられました。

まとめ

今回の調査方法から、大学の新型コロナウイルス対策について、評価を行うことは難しいですが、新型コロナウイルス関連について多くの意見が寄せられたことは、多くの学生が注目していることだと考えられます。新型コロナウイルスの影響は来年度以降も続くと考えられます。そこで、これらの意見が、大学側が今後の対応を検討するうえでの一つの指針になればと願っています。

ここでは、今回の学勢調査 2020 で、各所属系の具体的なカリキュラム構成や専門の授業に対して記された意見についてまとめます。

理学院

- 化学系
 - 選択科目に応化や材料のようにフォーカス制度を設けてほしい。
 - 2年20に授業が少ない。
- 地球惑星科学系
 - 物理科目でもっと専門に絡めた話をしてほしい。
 - 専門科目の授業数が少ない。
 - 気象学の授業が欲しい。
 - 量子力学(地惑)の質が低い。
 - 物理系の授業と被らないようにしてほしい。

工学院

- 機械系
 - 実験を必修にしてほしい。(2件)
 - 研究室配属の規定の変更を急に行わないで欲しい。(2件)
 - 材料力学と機械要素設計を同時に開講しないで欲しい。ちゃんと材料力学を修めてから設計に進みたい。(2件)
 - 200分連続の講義をやめてほしい。
 - 「熱力学(機械)」のペースが速すぎる。
 - テンソルについての数学的授業が欲しい。
- システム制御系
 - 数学(位相や集合など)に関する授業を増やしてほしい。
 - 系外の授業をとりやすくしてほしい。
 - 3年後期にも必修があり、早期卒業が難しい。
- 電気電子系
 - レポートの量が多いわりに提出が早い。
 - 電気電子工学実験第二Bが200番台なのがわかりづらい。3年でとるべきなら300番台にしてほしい。
- 情報通信系
 - どの授業がどの授業の知識を前提としているのかを系所属時に周知して欲しい。
 - 講義資料が間違いを多く含む、質問に対応してくれないなど、質の低い講義があった。改善して欲しい。

物質理工学院

- 材料系
 - 内容が易しすぎる。一夜漬けで何とかなってしまう期末テストでは意味がない。
 - 情報処理概論演習を必修ではなく選択にしてほしい。
- 応用化学
 - 有機化学の進度が遅すぎる。有機必修は二年の前半で終わらせてほしい。
 - 取りたい文系教養科目が必修単位と重複する時間で取れない。
 - 研究プロジェクトはランダムで振り分けるのではなく、分野程度は自分で選ばせてほしい。
 - 科目間の連携をもっと取ってほしい。内容の重複が多々見られる。
 - 無機化学の範囲が膨大なので複数の単位に分割して欲しい。
 - 必修科目でクラス分けによって成績のつけ方が不公平である。
 - 成績について、「あまり高得点をつけない」という方針が転系、留学の妨げとなっている。
 - 4年8月に卒論発表を行うのはタイトすぎる。

意見まとめ

情報理工学院

- 数理・計算科学系
 - 機械学習、プログラミング系の科目も系指定の科目にしてほしい。
- 情報工学系
 - もう少し最先端の内容に触れてほしい。
 - 必修科目があり3年2Qに留学に行けない。
 - オリエンテーションで言及されていた面談が行われていない。

生命理工学院

- 生命理工学系
 - 3年後期が暇なので授業も開講して欲しい。(2件)
 - 4年次からの研究室配属にしてほしい。(2件)
 - 仮配属の位置づけをもっとはっきりして欲しい。
 - 実験と座学の順番が逆に思える。
 - 双方向の講義を行ってほしい。一方向すぎる。
 - 授業が狭く、浅い。
 - 緑ヶ丘の実験室にもWi-Fiが欲しい。
 - 医学関連の授業が欲しい。
 - 数学を用いた授業が欲しい。
 - 生命理工学院内にもっと多様な系を新設して欲しい。

環境・社会理工学院

- 建築学系
 - 使用ツール(CAD等)に対する経済的支援が欲しい。(2件)
 - 製図に使用するツールの使い方を指導する時間がもっと欲しい。
 - 負担が大きすぎる。課題をもっと前もって計画的に出してほしい。
 - 「製図設計」のせいで睡眠がとれない。負担を減らしてほしい。
 - 製図室の冷暖房設備を改善して欲しい。
 - CADの使い方についての演習を集中講義の形でもいいので取り入れてほしい。
 - 早期卒業の要件が高度すぎるよう感じる。
- 土木・環境工学系
 - 専門科目が多すぎる。(2件)
 - 研究室配属を抽選でやらないで欲しい。
- 融合理工学系
 - 融合推奨科目と必修科目が被っていて取れない。
 - 同じ科目を日本語と英語の両方で開講するなら実施時期をずらしてほしい。
 - もっと専門性の高い授業をしてほしい。

まとめ

各系に向けて、様々な意見が挙げられました。ただ、上述の意見は、自由記述に記された意見から抽出したものなので、少数意見である可能性もあります。各系の先生方におかれましては、これらの意見をもとに、各系で独自のヒアリングを学生に対して行っていただき、現状を正確に把握したうえで改善を進めていっていただければと思います。